

1. 景況概要データ

① 景況概要(業種別)

建設業	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高	16.7% ☀️☁️	16.7% ☀️☁️	⇒
資金繰り	50.0% ☀️	50.0% ☀️	⇒
採算	16.7% ☀️☁️	33.3% ☀️	↗️
業況	33.3% ☀️	50.0% ☀️	⇒
従事者	-16.7% ☁️☔️	0.0% ☁️	↗️

●今期の景況動向指数(DI値)は、「売上高/16.7%」「資金繰り/50%」「採算/16.7%」「業況/33.3%」「従事者/▲16.7%」であり、「従事者」を除く指標がプラスの領域であり、全体的に好調感を維持/改善している。
 ●来期への予測は、「従事者」の指標も改善される予測であり、すべての指標でプラス領域となり、好調状態を維持。

小売卸業	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高	-33.3% ☁️☔️	66.7% ☀️	↗️
資金繰り	-33.3% ☁️☔️	33.3% ☀️	↗️
採算	-33.3% ☁️☔️	33.3% ☀️	↗️
業況	-50.0% ☁️☔️	16.7% ☀️☁️	↗️
従事者	0.0% ☁️	0.0% ☁️	⇒

●今期の景況動向指数(DI値)は、「売上高/▲33.3%」「資金繰り/▲33.3%」「採算/▲33.3%」「業況/▲50%」「従事者/0%」であり、「売上高」は若干好転したが全体的に前期より悪化し低調な傾向。
 ●来期への予測は、すべての指標で大幅な改善となる予測となっておりマイナス領域からの脱却が期待されている。

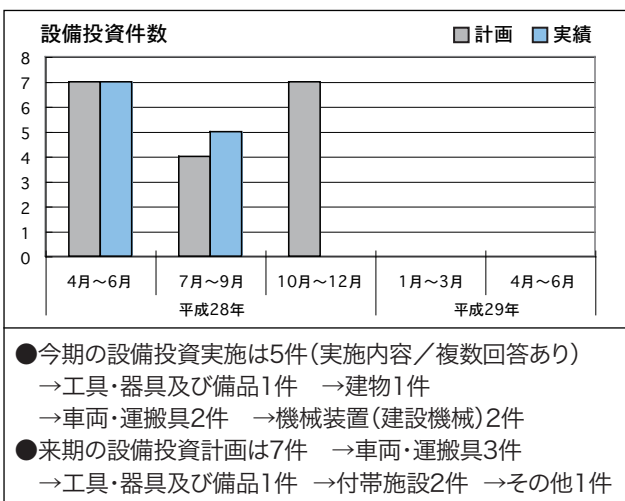
サービス業	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高	-16.7% ☁️☔️	0.0% ☁️	↗️
資金繰り	0.0% ☁️	-16.7% ☁️☔️	↘️
採算	-16.7% ☁️☔️	-33.3% ☁️☔️	↘️
業況	0.0% ☁️	-33.3% ☁️☔️	↘️
従事者	0.0% ☁️	0.0% ☁️	⇒

●今期の景況動向指数(DI値)は、「売上高/▲16.7%」「採算/▲16.7%」「資金繰り」「業況」「従事者」は0%であり、前期と比較して全体的に大きく改善する結果となったがマイナス領域を脱却できない状況。
 ●来期への予測は、「売上高」は若干の改善傾向であるが「資金繰り」「採算」「業況」が悪化傾向であり厳しい状況が継続。

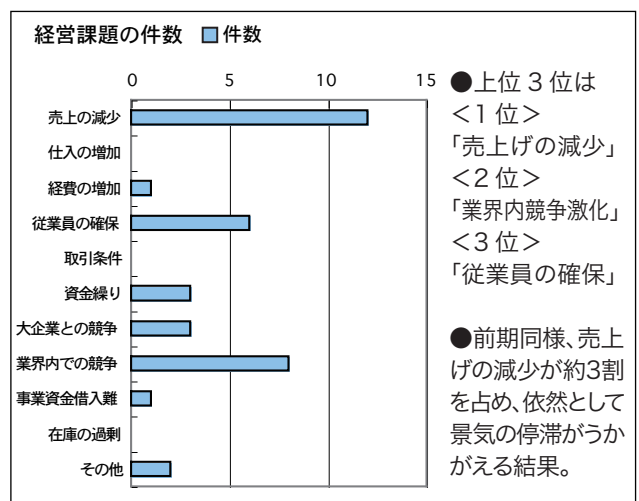
製造業	平成 28 年		予測傾向
	7月～9月	10月～12月(予測)	
売上高	-50.0% ☁️☔️	0.0% ☁️	↗️
資金繰り	-50.0% ☁️☔️	-16.7% ☁️☔️	↗️
採算	-50.0% ☁️☔️	0.0% ☁️	↗️
業況	-66.7% ☁️☔️	-16.7% ☁️☔️	↗️
従事者	0.0% ☁️	-16.7% ☁️☔️	↘️

●今期の景況動向指数(DI値)は、「従事者/0%」を除いて「売上高/▲50%」「資金繰り/▲50%」「採算/▲50%」「業況/▲66.7%」であり前期同様「きわめて不振」の結果。
 ●来期への予測は、「従事者」は若干悪化するが、その他の指標は大幅に改善傾向と予測。しかし全体的にマイナス領域に留まる予測であり、継続的な強い改善の持続が必要。

② 設備投資概況(全業種)



③ 経営課題概況(全業種)



2. 景況概要のまとめ(業種別)

①建設業

建設業における今期の景況感は、「従事者」を除く「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」の指標が前期より維持・改善の傾向であり、中でも「資金繰り」「業況」「採算」は「特に好調」の結果となっている。また、従業員の確保が最大の課題であり、仕事量の豊富さや増加傾向を裏付ける内容となっている。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予測は、若干の改善要素を含みつつ今期を維持する傾向で、すべての指標がプラス領域となり好調な市場環境が維持されると推測されるが、その反面競争の激化による売上高の減少の課題も顕れており、資金繰りや採算の悪化への連鎖が危惧される。宮崎県内の建設業の傾向としては「売上高」「採算」「資金繰り」ともに改善されており、中でも「売上高」「資金繰り」のDI値はプラス領域となり比較的好調な状況と推測できるが、来期に向けてはすべての指標が悪化傾向を示している。全国的にも同様の傾向であり、今後の経済対策等の効果が期待される。

②小売卸業

小売業における今期の景況感は、前期と比較して「売上高+16.7P」の改善がみられるが「資金繰り」「採算」「業況」では悪化の結果となり、相対的に前月より厳しい結果となった。課題としては「業界内および大企業との競争の激化」などが挙げられており、激しい顧客獲得競争の状況が推測される。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予測は、「従事者」を除くすべての指標で大幅な改善の予測であり、プラス領域への押上げが期待されている。特に経営の源泉である「売上高」が+100Pと大きな改善予想であり、来期以降のその他の指標の改善に大きく影響すると推測される。宮崎県内の小売業の傾向としては「売上高」「資金繰り」が悪化傾向であり厳しい経営環境が顕れているが、来期に向けては改善の兆しもある。全国的業況は「横ばい」または「弱い改善」の傾向となっている。

③サービス業

サービス業における今期の景況感は、前期と比較して「従事者」を除く「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」の指標において大幅な改善(+50P～+67P)となったがマイナス領域からの脱却は実現できずに、相対的に「やや不振」の状況に留まった。課題からは「業界内での競争の激化」が懸念されており、地域内での顧客争奪競争の激化が推測される。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予測では、「売上高(+16.7P)」は改善される傾向ではあるが、その他の指標は維持または悪化の傾向であり、相対的には「不振」の傾向が強まることが予測されている。宮崎県内のサービス業の傾向としては「売上高」は改善傾向、「採算」「資金繰り」は悪化傾向となっているが、来期に向けても「売上高」は改善傾向であり、全体的には弱い回復基調にあると推測される。全国的にも今期～来期に向けて微増ではあるが改善傾向であり、弱いながらも回復基調と推測される。

④製造業

製造業における今期の景況感は、前期と比較すると多少の変動はあるが「従事者」を除く「売上高」「資金繰り」「採算」「業況」の指標が「きわめて不調」の領域から脱却できずに、相対的には前期より若干悪化傾向となっており、非常に厳しい経営環境が継続していると判断される。課題としては、「大企業との競争の激化」および「業界内での競争の激化」を危惧する声が多く見受けられ「競争の激化」→「売上の減少」→「資金繰りの悪化」のネガティブな連鎖が推測される。来期(平成28年10月～12月)に向けての景況感の予測では、「売上高」「採算」「業況」が+50P、「資金繰り」が+33.3Pと大幅な改善予測であり、回復基調ではあるがマイナス領域からは脱却できない状況。宮崎県内の製造業の傾向としても、「売上高」「採算」「資金繰り」ともに改善傾向ではあるがDI値はマイナス領域で厳しい状況が継続すると推測される。全国的には、業種により多少の違いはあるが、ほぼ横ばいの傾向となっている。